計画の骨子（課題･方針･措置 対応表）

･計画準備/事後報告　〇実施　△ゼロ予算で実施　　◎は主として取り組む主体　〇は協力して取り組む主体

保存と活用に関する課題	基本方針		事業名	事業内容	計画期間									取組主体				財源
					前期			中期			後期			行政	専門家	団体	町民	
					R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12					
文化財の把握が不十分	文化財を掘り起こす（調査）	1	カニカン岳金山跡総合的把握調査	採掘坑や露天掘り跡、鉱山臼散布域、拠点的な作業場等、所在確認調査や文献調査を実施し、鉱山の全容を解明する。				･	･	･	〇	〇	〇	◎	〇			町
		2	マンガン鉱山総合的把握調査	保管資料の基礎的調査を進めるとともに、鉱山現地での所在確認調査や文献調査を実施し、鉱山の全容を解明する。	･	･	･	〇	〇	〇	･	･	･	◎	〇	〇		国補助
		3	重要遺跡所在確認調査	把握調査で確認された重要遺跡（チャシ跡、縄文遺跡等）の所在確認･試掘調査を実施し、今後の保存整備に向けた基礎資料とする。	〇	〇	〇	･						◎	〇	〇		国補助
		4	史跡ピリカ遺跡基本調査	ピリカ遺跡の年代的位置づけを明らかにするため、理化学測定を実施。これまでの未報告分の調査報告書の刊行。	〇	〇	〇	･	･	･				◎	〇			国補助
		5	歴史的建造物･古民具･祭礼基本調査	古民家や古民具を調査し、保存すべきものを把握するとともに、祭礼について聞き取り調査し、その由来や失われたものを把握する。	･	･	･	〇	〇	〇				◎	〇	〇	〇	町
		6	天然記念物基本調査（化石、植生、動物、昆虫、鳥類等）	専門職が不在のため行われていない天然記念物全般の基本調査のほか、ピリカカイギュウ化石の価値づけを実施。渡島半島北部の自然環境の特徴を把握する。				･	･	･	〇	〇	〇	◎	〇	〇		町
担い手の減少と高齢化	文化財を守る（保存）	1	文化財の指定･登録	専門家による価値付けや把握調査で認知された文化財の指定物件を増やし、保存と活用を図る。（砂金採掘跡･鉱山臼、マンガン鉱山資料、インマヌエル教会等）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	〇			町
		2	美利河砂金採掘跡の保存整備（土地の公有化）	貴重な遺構がみだりに荒らされないよう規制を設けるとともに、解説案内板を整備し、学校教育･社会教育両面での活用や観光活用を図る。	〇	〇	〇	･	･	･				◎	〇		〇	国補助
		3	文化財保護を担う住民団体の体制構築	保存と活用を担う住民団体の協力が欠かせないことから、町民対象の講習会等の開催等を通じ、既存団体の連携体制を構築する。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎		〇	〇	町
歴史文化を学ぶ、伝承する機会が少ない	文化財を磨き上げる（活用）	1	史跡ピリカ遺跡に関する調査研究成果の公開、活用	ピリカ遺跡の調査研究成果を公開するセミナーを通じ、その歴史的意義を広く周知し、併せて住民団体の育成を図る。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	〇	〇		町
		2	ピリカフットパスコースの整備／周遊アプリの開発	美利河地区の多様な文化財を周遊できるコースを整備し、学校教育･社会教育両面での活用はもとより、観光資源としても活用を図る。技術開発は大学と連携。	△	△	〇	･	･	･				◎	〇	〇	〇	国補助
		3	ピリカカイギュウ化石の特設展示場整備	化石発見地点の案内板を整備（デジタル復元）するとともに、復元骨格模型や町内産化石の展示場を整備し、教育資源･観光資源として活用する。				･	･	･	〇	〇	〇	◎	〇	〇		国補助
		4	マンガン鉱山の再現展示	既存のコーナーを整備し直し、鉱山全景のジオラマ制作のほか、貴重な動力機械を活用した再現展示等に取り組み、稼働時の様子を臨場感をもって伝えられる整備を実施。	･	･	･	･	･	･	〇	〇	〇	◎	〇	〇	〇	国補助
		5	旧国鉄瀬棚線の再現展示	既存のコーナーを整備し直し、ジオラマ制作や関連資料を一堂に集め、町の発展に果たした国鉄瀬棚線の功績を後世に伝える。	･	･	･	･	･	･	〇	〇	〇	◎	〇	〇	〇	町
		6	子ども向け郷土史教材の制作	把握調査の成果を踏まえ、だれでも親しみやすい郷土史教材（絵本等）を制作し、町内各地区の開拓史や歴史を次世代に伝える。				･	･	･	〇	〇	〇	〇	〇	◎	〇	町